

UDLM

日が長く、夜も過ごしやすい気候になると、色々なまちへ出かけたくなります。西日に照らされる街並みの先へ、もう少しだけ足を伸ばしてみよう…
そんな好奇心から生まれた一冊です。

5

vol.333

May 31st
2023

夕映えの奥に誘われて



p.2-6 街並みのパッチワークを紐解く
p.7 ようこそ、新B4メンバー！

△夕暮れの神宮前を散策する人々

街並みのパッチワークを紐解く

旧渋谷川遊歩道路(キャットストリート)は、表参道・明治通りの裏通りとして、住宅街からストリートファッショング街へと変遷を遂げてきた場所である。この通りを歩いていると、ネオンが光る看板や派手な色の外壁が各々のやり方で自己主張をしながら並ぶ中で、突如古くて小さな木造住宅が現れることがある。多くの来街者はそれに目を向けることなく、興味を持った店舗に次々と足を運んで回遊しているが、一人でゆっくり通りを歩くとそのチグハグさに気づくことができる。この場所は、古いものと新しいものが隣り合わせて並ぶパッチワークのような街並みであると感じる。

では、似たような木造住宅が建ち並ぶかつての街並みから、各建物がどのように姿を変えて、現在の混在した街並みができたのか。一見、なんの文脈もなくそれぞれ発生したように見える個性豊かなデザインからも、実は当時の流行りというものが見出せたりするのだろうか。

本号では、この一本の通り沿いに佇んでいる建築物の一つ一つを見つめ、年代ごとの時代背景やファサードデザインの風潮などについて考えてみる。



通りの歴史を知る

今から50年前、キャットストリートは農村を流れる渋谷川の分流だった。有名な童謡「春の小川」もこの場所を題材に書かれたものである。暗渠化されてからも、農村から住宅地、そして煌びやかな商業地へと、目まぐるしく姿が変わっていた。

60年代以前は、市のちょうど周縁部を流れる川・農村として、栽培した米を精米などして市内に販売することで栄えていた。その水車の風景が葛飾北斎「富嶽三十六景」の一つ、「穏田の水車」に描かれている。1963年に流域が市内に含まれたことで宅地開発が進み、川は生活排水で汚染された。東京オリンピックに向けて、それを隠すべく暗渠化されてきたのが現在の旧渋谷川遊歩道路(キャットストリート)である。当時は道路として指定されて

いなかつたため、道の真ん中に遊具が置かれ住民の遊び場になっていたようで、今でも公園のような空間が一部遺されている。一方、隣接する表参道や明治通りでは商業開発が進行していた。80年代に入ると、付近の洋裁学校の影響もありいくつかのアパレル店が街角に現れ始めた。バブル期には地価が上昇し不動産開発が進んだことで多くの住民が転出してしまい、より多くのアパレル店が次々と店を開いた。そんな中バブルが崩壊し、地価が下落したところに経済力のない若者が店舗を開業し始めたことが、現在のようなストリートファッショング街の起源と言われている。ここまで、建物の規模は住宅街だった頃からほとんど変化しなかったが、1996年に正式な道路として認められてから、大規模な商業施設も通り沿いに見られるようになった。



●1963 | 市域拡大により流域が市内に入る
●1963 | 東京オリンピックに向け暗渠化される

●1982 | ピンク・ドラゴン創業
●1986 | バブル景気

●1991 | バブル崩壊
●1996 | キャットストリートの区道認定

●1972 | 明治神宮前駅開通(表参道の開発進行)



△富嶽三十六景「穏田の水車」



△現在遊歩道に残る公園のような空間



△アパレルブランド
「ピンクドラゴン」



△90's創業アパレルブランド
「Candy Stripper」



△商業施設の開発



建築年代を見ながらまちあるき

まず、通り沿いに現在の姿の建物が建った年をできる限り調査した。次のページから続くのは、それぞれの建物が竣工した年や外装が今の姿に改装された年の一覧であり、今見えている風景の断片がいつの時代からあるものなのかも知ることができる。調べてもわからなかったものに関しては、ゼンリン住

宅地図やGoogleストリートビューなどを使って推測した。

最後に、このマップを参照しながら実際に通りを歩き、一軒一軒を観察した。各年代の建築様式やファサードデザインにおける風潮は見えてくるのだろうか。

年代マップ

at. キャットストリート

千駄ヶ谷方面

2017 開店

住宅が残るエリア
-1964? 建工
-1968? 建工
2000-02? 建工

2000-02? 開店

2000-09? 開店

民家改修でパステルカラーのドーナツ屋さんに



2019 改修

2003 建工

1997 建工

1990 建工
2021 改装

改装で黒いファサードに



-2020

2015 改装

2000-09? 建工

2000-13? 建工

2020 建工

1980-90? 建工

1990-02? 建工

2000-09? 建工

2019 建工

1980-90? 建工

2010 建工

2010 建工

2008 建工

リフォームにより古さを感じさせない外観になった

1962 建工

1992 改修

2004 増築

住宅が残るエリア

1970-80? 建工

1977 建工

2010 建工

1986 建工

2013 建工

2003 建工
2017 改装

徐々に1Fをひらいている



開口が設けられる
さらに木調になり
店舗ロゴがつけられる

2016 改装

2002 建工

2016 開店

2022 建工

1987 建工
2020 改装

改装で黒いファサードに

2016 開店



2009 建工

2000-12? 建工

2001 建工

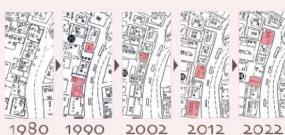
1980-90? 建工

2008 建工

1976 建工

ペンシルビルの街並み

小さな民家が密集していたのが時期をずらしながら雑居ビルに建て替わったため敷地割が小規模なまま変わらなかったと考えられる。



▲住宅地図から推測される
建て替え時期

古着屋 × 透明度の高いファサード

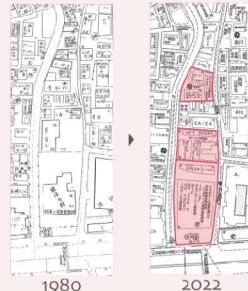
1Fだけでなく2階以上もガラス張りにして商品を通りに見せている店舗が多く、通りの中でも独特な雰囲気を持つ区間となっている。





広敷地の開発が多いエリア

かつての名残で大きな敷地割がされているが、一敷地の中で分棟にして高さを抑えているため街並みは周囲と調和している。



中でも特徴なのは、棟の間の通路を南北に平行に伸びる二本の通りを繋ぐ動線としてまちにひらき、両方の通りから人流を引き込んでいることである。



大きな商業ビル。遊歩道沿いの現存の店舗と比べるとかなり早い時期にできたことがわかる。

先に表参道の商業開発が進み、角地の開発をきっかけに遊歩道へ商業が浸透していったことが示唆される。



表参道に面して主要な入り口を設けているが、キャットストリートからの見え方も意識しており階段も設けられている。建てられた年代も角地の四軒の中でもっとも新しく、時代を追うごとに通りが主要な商業地へ姿を変えたことを示唆させる。

1977 竣工

テナントの入替とともに黒っぽいデザインに



2000 竣工

2019 改装

2002 竣工

1997 竣工



2007 竣工

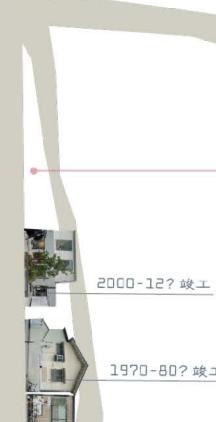
1978 竣工

住宅が残るエリア

2009 竣工

1966 竣工

1998 竣工



三日月型街区

渋谷川が流れていた当時、農業用水路をひいたり水車を回したりする目的で川の流路を付け替えたり、分岐させたりすることがあった。

そのため三日月型の街区形状が残り、建物のスケールも小さく抑えられている。





年代ごとの傾向

農村から宅地へ

公園沿いの住宅地

商業地への転換

若者向け
ファッション街へ

建て替えの進行

1960

1970

1980

1990

2000

- 1963 | 市域拡大により流域が市内に入る
- 1963 | 東京オリンピックに向け暗渠化される

- 1982 | ピンク・ドラゴン創業
- 1991 | バブル崩壊

●1986 | バブル景気

●1996 | キャットストリートの区道認定

●1972 | 明治神宮前駅開通（表参道の開発進行）

-1970's

木造住宅 ビル建設の始まり

この年代の建物のほとんどが木造とみられる住宅で、今も居住者がいるようだった。彼らはこの通りが住宅地から商業地になるまでの変遷を見てきたのだろう。

一方で、この年代に建てられたと考えられる中高層の商業ビル、飲食店、雑居ビルも一軒ずつ見られ、今でも人々に利用されている。斜線制限のために特徴的なシルエットが生まれ



ていたり、地区計画で定められたセットバック距離が大きい分バルコニーが大胆に突き出していたりと、法制度がデザインに特徴を与えていたことが推測される。



1980's

住商併用 テナントビル 赤いレンガ

この年代に建てられた住居専用の建物は残っていないようだった。一階を店舗としてひらいた住商併用の建物やテナントビルの建設がこの年代から急増したことがうかがえる。また、70年代の飲食店のデザインを筆頭になのか、赤いレンガの仕上げがこの年代まで流行っていたのかもしれない。

竣工から今までの間に仕上げだけ変えた可能性もあるが、80年代の建物は赤いレンガ調のものが多くなった。▶



1990's

ビビッドカラー 前衛的なデザイン

建設技術の進歩から、曲線の開口部や不整形な建物外形など、店舗のコンセプトなどに合わせて前衛的なデザインが施されるようになったようである。また、この時代に建てられた戸建て住宅が何軒あるのが意外だったが、バブル崩壊により地価が下がったことが原因かもしれない。さらに、竣工後数年経ってから塗り



替えられた可能性もあるので断言はできないが、建物の外装に差し色として黄色や赤などの派手な色が使われ始めたのも、80年代にはなかった特徴である。住宅街というよりはファッションストリートとして人々に認識されるようになったことの象徴と言えるかもしれない。



2000's

建て替えの進行 透明度の高いファサード 広い敷地の開発
ファッション街としての注目

2010年以降に建てられたものよりも2000年からの10年間で建てられた物件の方が圧倒的に多かった。1996年に旧渋谷川遊歩道路が区道認定されたことが、この時代に一気に建て替えが進んだ要因である。区道認定によるもう一つの潮流は、広い敷地への開発が次々と行われたことである。どの事例も分棟・高さを抑えたものとなっており周囲の街並みに溶け込んでいるが、これらは全てこの10年間に建てられたもの



2010's

モノトーン 黒い外装 小さな開発

直近十数年に竣工された建物を見て意外だったのは、2000年代にあつたような規模の大きな開発がほとんど見られなかつたことである。1996年の区道認定をきっかけに、2009年までの約10年間で大きな空地の開発がしにくされ、この頃にはその流れが落ち着いていたと見られる。対して、小さい敷地での個々の建て替えや民家の改修、テナントの入れ替えによる外装のみの変化といった小さな操作は多く見られた。外装の変化の中でも、改装前は白や



参考

Google ストリートビュー

ゼンリン住宅地図(1964年度版,1970年度版,1980年度版,1990年度版,2000年度版,2010年度版,2022年度版)

田原光泰(2011),『春の小川はなぜ消えたか』,フィールドスタディ文庫
増淵敏之(2012),『路地裏が文化を生む!』,青弓社

ようこそ、新B4メンバー！

今年度は、新しく5名の学部4年生が都市デザイン研究室に加わってくれました。これから、研究室のメンバーとして、新たなみちを歩み始める5人を深掘りしていきます。
今回は既に1年半都市工学科に在籍し、さまざまなまちを歩いてきた彼ら・彼女らに、**これから歩いてみたいまち**をインタビューしてみました！

- ① 出身地 🎂 誕生日
- ② 趣味
- ③ 都市デザイン研究室を選んだ理由
- ④ 好きなまち・都市
- ⑤ これから歩いてみたいまち



木村 千咲 Chisaki Kimura
⑤ 杉並区 🎂 5/25

- ① ラクロス！！
食べること、寝ること、料理、散歩
- ② デザイン系に興味があり、研究室の雰囲気もよさそうだと思ったから。
- ③ 高円寺
地元だからというのと商店街のいい感じのごちゃっと感が好き。
- ④ ローテンブルク
中世ヨーロッパの街並みが好きで、美女と野獣を見て綺麗だなと思ったから。



星 葵衣 Aoi Hoshi
⑤ 練馬区 🎂 7/1

- ① 音楽、映画、ドーナツめぐり
多様なプロジェクトと、
- ② 研究室の雰囲気に惹かれました。
- ③ 北青山
ビルの合間に見える寺院建築、都市と共生する小さな森（のあおやま）が好きです。
- ④ 清澄白河
緑と水辺とおいしいものが揃っているから。



石井 聰太 Sota Ishii
⑤ 西宮市 🎂 12/28

- ① スノボ（去年の学科スキーツアーではスノボは3人だけでした！泣）
- ② 詳細なスケールに興味があったのと水上PJがとても楽しかったため。
- ③ 芦屋川
川沿いに駅やホールなどが並び、六甲山まで抜ける街の構成がシンプルで自然を感じるから。
- ④ バルセロナ
正方形の街区が並ぶ航空写真に圧倒されたから。



田邊 萌 Moe Tanabe
⑤ 練馬区 🎂 1/24

- ① ピアノやチェロを弾くこと、旅先でスーパーマーケットに行くこと。
- ② 振り返ってみると設計演習が1番楽しかったなと思ったから。
- ③ 吉祥寺
幼い頃からの思い出がつまっているから。天気や平日休日に因らず楽しいまちだと思います。
- ④ イスタンブール
じっくりグランドバザールを探検してみたいから！



和栗 千明姫 Chiaki Wakuri
⑤ 新宿区 🎂 9/17

- ① カメラ、スケッチ、マンガ、バラエティー
- ② 演習の設計課題が楽しかったこと、先輩先生方のお人柄です。
- ③ 高田馬場
生まれ育った街ですが、色々な人が色々な時間を気ままに生きていくさまが魅力です。
- ④ ヴェネチア
海と生きるまち！沈む前に是非行きたいです…

COLUMN

POSTSCRIPT

5月といえばまち歩き！ということで、作った地図を片手に皆で実際に歩きながらあれこれ話すことまでが本日のねらいでしたが、雨女の力を発揮してしまいまち歩きは中止に、P6の分析は一人で寂しく行いました。キャットストリートに遊びに行く際はこの記事のことを思い出してくださると嬉しいです。ここで問題です。この記事の中に猫は何匹隠れているでしょう？

5 月号担当
M2 平野 真帆



WEB MAGAZINE

手賀沼ドライブ



手賀沼プロジェクト

新体制でドライブへ行きました。地域の方にばったりと会っては声をかけていただき、地域に根付いたプロジェクトであることを実感しました。美味しいものもたくさん食べられて大満足！(M1 山田)

続きを読むコチラ >>>

<https://ud.t.u-tokyo.ac.jp/a/blog/>



塩尻ワインテラス調査！



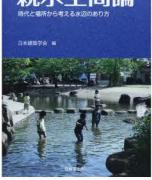
塩尻輪講

学生6名+教員で塩尻駅前で催されたワインテラスにてアクティビティ調査を行いました。ワインを飲みながらくつろげる、地方の駅前広場の良い活用方法を見ることができました。(M2 橋)

BOOK OF THE MONTH

親水空間論

時代と場所から考える水辺のあり方



親水空間論

時代と場所から考える水辺のあり方

日本建築学会 編
技報堂
2014

日本には「間」の感覚が古来より継承され、あらゆる都市や場に堆積している。身近な水辺が生活に連絡と根付く場から一度離れ、いま多様なあり方を呈し始めている中、水を通じて心に見るアーキタイプとは何か問いかねることが重要かもしれない。(M1 音山)